

定期作況報告

(平成25年8月20日現在)
上川農業試験場天北支場

I 気象概況

7月下旬から8月中旬までの気象は以下のように推移した。

7月下旬：平均最高気温が21.8℃（対平年比+0.3℃）と平年並であったため、平均気温は17.9℃（+0.1℃）と平年並であった。降水量は7.0mm(14%)と平年より少なかった。日照時間は43.2時間（94%）と平年並であった。畑地温は16.1℃（+0.1℃）と平年並であった。

8月上旬：平均最高気温は23.7℃（対平年比-0.4℃）と平年並であったが、平均最低気温が16.0℃（-1.6℃）と平年より低かったため、平均気温は19.3℃（-1.3℃）と平年よりやや低かった。降水量は19.0mm(52%)と平年より少なかった。日照時間は45.3時間（99%）と平年並であった。畑地温は17.0℃（-1.5℃）と平年より低かった。

8月中旬：平均最高気温が26.0℃（+2.1℃）、平均最低気温が20.0℃（+3.6℃）といずれも平年より高かったため、平均気温は22.7℃（+2.7℃）と平年より高かった。降水量は75.5mm(290%)と平年より多く、日照時間は30.5時間（67%）と平年よりやや短かった。畑地温は20.0℃（+1.3℃）と平年よりやや高かった。

以上、この期間を要約すると平均気温の3旬の平均は19.9℃（+0.5℃）と平年よりやや高かった。降水量の3旬の合計は101.5mm（92%）と平年並であった。日照時間の3旬合計は101.5時間（87%）と平年並であった。畑地温は17.6℃（-0.1℃）と平年並であった。

4月からの主気象要素の積算値は、平均気温、日照時間、畑地温は平年並に推移している。一方、降水量は平年より少なく推移しており、8月中旬は降水量が多かったものの、未だ平年の59%である。

a. 気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			3旬平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温（℃）	17.9	17.8	0.1	19.3	20.6	△ 1.3	22.7	20.0	2.7	19.9	19.4	0.5
平均最高気温（℃）	21.8	21.6	0.3	23.7	24.1	△ 0.4	26.0	23.9	2.1	23.8	23.1	0.7
平均最低気温（℃）	15.3	14.4	0.9	16.0	17.6	△ 1.6	20.0	16.4	3.6	17.0	16.1	0.9
降水量（mm）	7.0	48.6	△ 41.6	19.0	36.3	△ 17.3	75.5	26.0	49.5	101.5	110.9	△ 9.4
降水日数（日）	3	4	△ 1	3	3	△ 0	6	4	2	12	11	1
日照時間（hrs）	43.2	45.9	△ 2.7	45.3	45.9	△ 0.6	30.5	45.5	△ 15.0	119.0	137.3	△ 18.3
平均畑地温（10cm,℃）	16.1	16.0	0.1	17.0	18.5	△ 1.5	20.0	18.7	1.3	17.6	17.7	△ 0.1
最多風向	E			E			SW					
平均風速（m/s）	2.4			2.4			2.5					

注1）平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2）平年値は前10か年の平均より上川農試天北支場作成。

3）降水量、降水日数、日照時間の3旬平均欄は3旬の合計値。

4）△印は対平年値比減を示す。

b. 主気象要素積算値（4月21日～8月20日）

	平均気温 （℃）	降水量 （mm）	日照時間 （hrs）	畑地温 （℃）
本年	1,728	201	576	1,481
平年	1,647	342	577	1,447
比較	81	△ 141	△ 1	35

Ⅱ 作 況

1. 採草型 チモシー（2番草）

作況：不良

事由：2番草生育期間中は干ばつ状態で推移したため、生育が著しく抑制され、葉先の枯れや黄化が認められた。そのため、草丈および乾物収量とも平年の半分程度にとどまった。乾物率は40.9%と著しく高くなっているが、これは干ばつにより枯死した葉部が混入したためである。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

収 穫 期（月・日）			収 穫 時 草 丈（cm）		
本年	平年	比較	本年	平年	比較
8.12	8.17	△ 5	31	69	△ 38

生草収量（kg/10a）			乾 物 率（%）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
294	1,098	△804	40.9	20.7	20.2	120	226	△106	53%

注）平年値は前7カ年のうち、平成20年（最豊年）及び平成22年（最凶年）を除いた5カ年平均値。

2. 放牧型 ペレニアルライグラス（4番草）

作況：不良

事由：チモシー同様、4番草生育期間中は干ばつ状態で推移したため、草丈は平年より低く、乾物収量は平年の57%にとどまった。乾物率は、8月中旬にまとまった降水があったことから、平年と大差なかった。

以上より、目下の作況は不良である。

調査項目：

草 丈（cm）		
本年	平年	比較
28	36	△ 8

生草収量（kg/10a）			乾 物 率（%）			乾物収量（kg/10a）			
本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	平年比
433	841	△408	19.8	18.2	1.6	86	151	△65	57%

注）平年値は前7カ年のうち、平成18年（最豊年）及び平成22年（最凶年）を除いた5カ年平均値。

Ⅲ 補足資料－作況圃場の生育状況について

本年は降水量が極めて少なく推移しており、チモシー 2 番草及びペレニアルライグラス 4 番草の生育が不良となった。以下は作況圃場における生育状況である。



写真 1 8月9日時点でのチモシー 2 番草の生育状況（品種：ノサップ）
（左の写真のスケールは黄色が10cm、ピンクが20cm）

チモシーは 1 番草刈取り後の生育が不良で、収穫 3 日前でも草丈が低く（写真 1 左）、葉先の枯れや黄化が認められた（写真 1 右）。これらの枯葉の混入により、乾物率が高まった。



写真 2 同一圃場における刈取り後の再生状況（8月15日）

2 番草収穫直前にまとまった降雨があり、干ばつ状態は解消された。写真 2 は刈取りから 3 日後に撮影したものであるが、良好に再生しており、株の枯死は認められなかった。

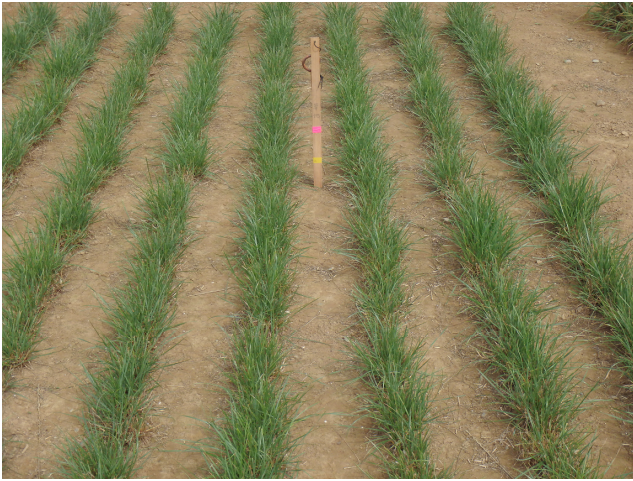


写真3 ペレニアルライグラス4番草の生育状況(品種：ポコロ)

写真3左は8月9日、右は8月15日に撮影した。8月9日時点では草丈は低い、葉先の枯れや黄化はほとんど認められなかった(写真3左)。降雨により干ばつ状態が解消された後は、概ね良好に生育している(写真3右)。